

テーマ	
袋川水辺におけるスナヤツメ・アカハライモリ等の希少動物の生息地再生の実践的試み	
発表者	
小林朋道 鳥取環境大学 環境情報学部 環境マネジメント学科 教授	
概要 研究の目的は、近年、生息地の人為的な破壊により、その生息地および個体数が急激に減少しつつある、希少動物を含む水辺水生動物の生息地を創出することであった。1年をかけて、樋門前の「円形溜り+水路」構造型生息地と、それを樋門が存在しない河川敷に応用した生息地を創出し、これまでのところ、前者にはアカハライモリやメダカといった希少種をはじめとした多種の水生動物の侵入・定着を確認している。	

研究内容			
<p>鳥取県東部の河川および支流に設置されている 28 ヶ所の樋門前水場を調査し、以下のような結果を得ている。スナヤツメ、アカハライモリ、メダカ、クロゲンゴロウといった絶滅が危惧されている水辺動物は、樋門の周辺水域のような以下の条件を満たす水場に生息することが明らかになってきた：①浅瀬の安定した水 ②緩やかな流れ ③細砂の堆積 ④有機物（枯葉等）の供給 ⑤高い DO ⑥水の高い透明度 ⑦護岸の石垣や自然土 ⑧水際や岸の植物の存在。</p> <p>上記のような知見に基づき初年度につくった生息地における侵入・定着動物のモニターを行い、またそれらの研究結果に基づき、新たな再生地を作成した（下図 A, B）。また 2 年目につくった生息地（下図 C）でのモニターも続けた。結果として、A、B に示した再生地でアカハライモリの定着が、また、C に示した再生地で、スナヤツメの繁殖・定着（下図 D）が確認された。</p>			
A	B		
C	D		
			
研究成果			
<p>上記に述べた「円形溜り+水路」構造型生息地でのモニタリングを現在行っているが、これまでの結果では、アカハライモリの（少なくともこれまでの）定着やメダカの侵入が確認されており、今回創出した「円形溜り+水路」構造型生息地が、目的に適した構造であることを示唆している（添付資料 1 を見て下さい）。また、これまで作製してきた生息地のモニターととおして、スナヤツメの繁殖・定着には、河川敷などの湧水も重要な条件になることが強く示唆された。</p>			
今後の課題			
<p>これまで、研究から明らかになった環境条件を備えた樋門前水場を創出してきたが、2 年目の研究により、スナヤツメの繁殖・定着には、河川敷などの湧水も重要な条件になることが強く示唆された。今後は、「円形溜り+水路」構造に加え、そこに湧水が流れ込むような構造をつくり、スナヤツメの繁殖・定着が促進されるかどうかを検証したい。</p>			

【ライセンス情報】 発明の名称: 該当なし		発明者:	
【産業界へのメッセージ】 生物の多様性が豊かな環境は、結局は我々の毎日の生活にも精神に健康な発達・維持にもプラスになります。豊かな河川環境の再生の活動に、ご理解とご支援をお願いします。			
連絡先: 鳥取環境大学環境情報学部環境マネジメント学科 教授 小林朋道			
鳥取市若葉台北1-1-1		TEL. 0857-38-6761	E-mail: t-kobaya@kankyo-u.ac.jp
分野	生物 環境	プレゼンタイム	有 (無)